



第10号 スキンケア・NST新聞



2013年9月発行

メンバー紹介：*石川医師 *詫間管理栄養士 *熊谷管理栄養士 *溝上Ns *深田Ns *稲垣Ns
*森本Ns *秋山歯科衛生士 *松井歯科衛生士



情報提供シリーズ

栄養剤の紹介・・・熊谷管理栄養士

★患者さんの栄養状態でお困りのことがあれば、お気軽に栄養科へご相談ください♪

★外来、退院後の利用については通販にて購入可能です

(栄養科にパンフレットあります)

《ゼリータイプ》

嚥下障害のある方、間食時やもう1品欲しいときに便利なゼリータイプの補助食品です
食事に追加したり、補食につけたり患者様に合わせたオーダーが可能です

おいしくサポートゼリー

(イチゴ・コーヒー・ヨーグルト味の3種類)

約80kcal/1個 (タンパク質: 5.0g、水分: 42g)

舌でつぶせるムース状、少量で食べきりサイズ

タンパク質や微量元素の補給におすすめです

(嚥下食の朝食についています)



当院の褥瘡・NST患者状況

2013年 8月

褥瘡回診	NST回診
2F: 3名	2F: 28名
3F: 21名	3F: 16名
4F: 12名	4F: 15名
計: 36名	計: 59名

10月からは、歯科4院所から複数名のDHさんが介入を開始してくれます。もうしばらく4階での活動となりますが、他の病棟の患者さんも困った時には声をかけてください♪

専門的口腔ケアの受け入れ病棟からの報告

今年度から、協同歯科から歯科衛生士さん(DH)に週1回来て頂き、口腔ケアを行っていただいています。試行的に4階病棟での開始となりました。

1回につき、約10名の患者様を管理ナースがチームナースの意見を聞きピックアップします。対象となっている患者さんは、慢性呼吸器病床の患者さん、口腔ケアの難しい方、口腔ケアしてもなかなかきれいにならない方などです。歯科衛生士から毎回様々なアドバイスで歯科往診につないだり、**口腔保湿剤**や**歯間フラシ**、**吸引付歯フラシ**の導入、また口腔ケアの際の**歯フラシの当て方**など細かいところまで指導いただいています。慢性呼吸器病床では**“VAP予防につながる”** **“摂食できない方も口腔内が清潔に保たれる事で表情がよくなる”** **“経口摂取訓練段階では義歯の問題が解決し食事摂取がしっかりできる”** など口腔ケアの大切さを改めて実感する日々です。歯科衛生士さんからのアドバイスをさらに生かしていけるように多忙な業務の中ですが頑張っていきたいと思います。
(4階病棟 稲垣看護師)

アガロリーゼリー

(洋ナシ・パイナップル・メロン味の3種類) 150kcal/1個

(タンパク質&脂質: 0g、カリウム&リン: 5mg以下、水分: 45g)

タンパク質、カリウム、リンをほとんど含みません。

腎機能低下している方におすすめ。

高カロリーでなめらかなゼリー食感、

フルーツ味なので甘いゼリーが苦手な方におすすめ





神戸協同病院で排泄ケアの改革が行われようとしています



患者さんにとって、看護師、介護士にとってもいいと言われる排泄ケアの新しい考え方・

日常の看護、介護業務の中で排泄ケアに私たちはかなり時間を必要としています。それだけではなく、感染の問題や、ごみの問題など・・・仕方がないとあきらめてしまっていないですか？患者さんも、羞恥心の問題や夜間起こされることでの不眠、スキントラブル、褥瘡のリスク、高額になるオムツ代、決して動きやすいとは言えない現状のオムツでは、ADLの改善も難しいです。何とか解決したいですね。

ユニチャームメンリッケの「TENA」の導入は、“吸収がいいオムツに変更する”といった単純な事ではなく、排泄ケアそのものを正しく理解し、専門的な知識・技術を身に付けて排泄ケアそのものを改革しようというものです。準備を丁寧に進める必要がありますが、学習会はもちろん、現状のデータ分析をもとに専門アドバイザーと各病棟からの担当者を中心にする予定です。

さっそく学習会も開催します、日常業務に大きく影響しますので、たくさんの参加をお待ちしています。

「TENA」の排泄ケア学習会

日時 10月1日(火)
17:00~1時間程度

場所 神戸協同病院
南館3階 食堂側

ユニチャームメンリッケの
専門アドバイザーによる学習会です。



NSTの活動が広がっています！ リハビリを頑張してほしいけれど、栄養状態が悪いまま、食事摂取も安定しないという状況では、疲労がリハビリを阻止するばかりではなく病状を悪化させてしまいかねません。自分たちも栄養のことにもっと関心を持ちそれぞれの専門職の立場から発信できるようSTだけではなく、PT、OTもNST活動にかかわり始めています。素晴らしい(#~#)

NST 活動に関わって

リハビリテーション科では3職種すべてがNST活動に関わっています。これまで、実際ラウンドに参加するのは主にST(言語聴覚士)と、一部のPT(理学療法士)でした。多くのPT、OT(作業療法士)は対象患者様のリハビリの進行度や活動状況などの現状を伝えることで間接的な関わりにとどまってきました。今年度5月から、週ごとに持ち回りでSTに加えてPT、OTもメンバーに加わり、多くのセラピストが直接的にNST活動に関わるようになりました。

全身状態が整わなければ、リハビリはできず、全身状態を支える要素の一つが栄養です。直接的にNST活動に関わるようになり、患者様の栄養状態や食事摂取量などの数値的情報だけでなく、形態や内容といった「質」、「ごはん食べられていますか？」の一言から得られる情報について以前より深く考えるようになったと思います。ラウンドでは、石川先生はじめ、管理栄養士、看護師の方のお話も聞きながら勉強させていただいています。活動度から摂取カロリーを検討する場面など、セラピストが直接関わることの意義も再認識できました。今後も、NSTチームの一員としてより積極的に関わっていきたくと考えます。
(理学療法士 坂本 有加)

